

## その時、少年は神になる

10月22日、ついに迎えた当日。

雨知らずの流鏑馬。秋晴れの中、パレードが始まりました。

町中の行く先々で、流鏑馬を一目見ようと待つ人たちが、一行を拍手や声援で激励しました。

パレードと弓受けの儀を終え、いよいよ本番。静まりかえった馬場に射手の掛け声が響き渡り、神事が始まりました。

4年ぶりの開催に会場は、ここ数年ないほどの人ばかり。

多くの観客が見守る中、初めての本番を迎えたはやて号が、ここ一番の走りを見せ馬場を駆け抜けます。

そんなはやて号に負けじと息を合わせて、力いっぱい弓を弾き、矢を放つ考晴君、その後ろを守るように全力で走る後射手の昊志朗君。

ダンツと大きな音を馬場に響かせながら、見事8本命中させ、奉納を締めくくりました。



父親の洋史さんは、「ここまで本当によく頑張ったと思います。今日の走りも百点です。」と、共に歩んできた道のりを思い返しながら、考晴君を労いました。大役を終えた考晴君は「8本の中させることができてよかったです。僕の姿を見て、ひとりでも多くの人が元気になってくれたら嬉しいです。」と話しました。

一人の少年が、流鏑馬保存会をはじめとしたたくさんの人々に支えられながら、大きな夢を叶え、また一步成長した流鏑馬奉納となりました。

写真提供 石川 徳美

千歳 弘人

黒木 正剛

